



長洲小だより

平成29年12月臨時号
尼崎市立長洲小学校
校長 中井 正人

学校ホームページアドレス <http://cen-web/school/E09/index.html>

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果について

初冬の候、保護者の皆様方にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、本校教育にご支援・ご協力を賜りましてお礼申し上げます。

さて、本年度に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が出ましたので報告いたします。尚、本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、また、学校における教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に行われました。小学校6年生の児童を対象に、国語・算数の2教科について、前学年までの指導内容を原則に実施されました。ただ、本調査により、測定できるのは、学力の特定の一部で、学校における教育活動の一側面に過ぎません。しかしながら、学校としましては、結果を真摯に受け止め、今後の教育活動に生かしていきたいと考えています。

1 調査内容

全国学力・学習状況調査

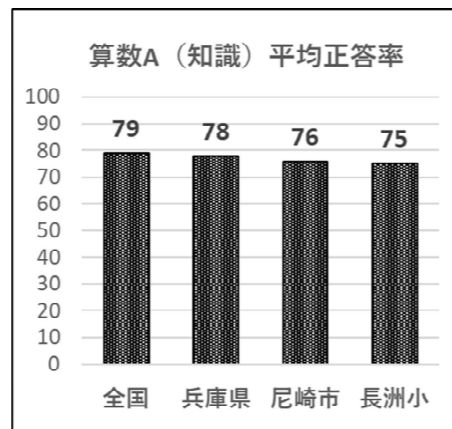
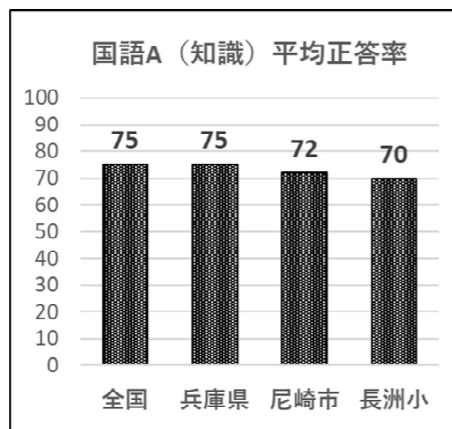
6年 教科に関する調査（国語A・国語B・算数A・算数B）

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 学力調査結果の概要

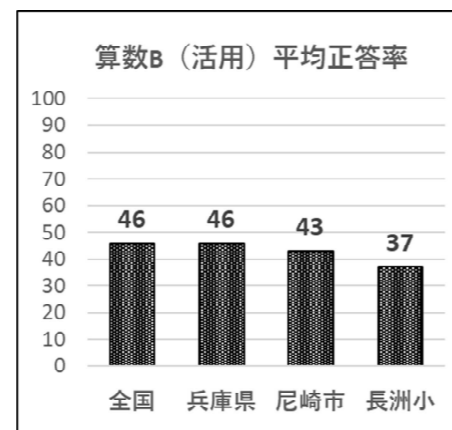
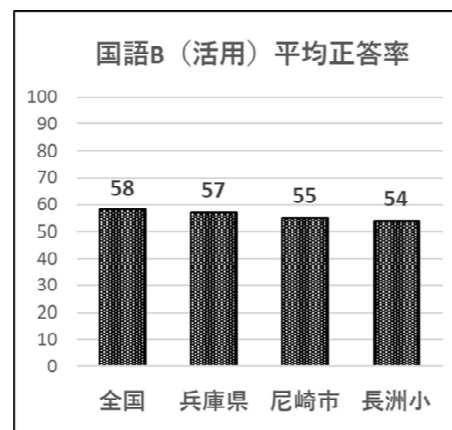
・A問題

基礎的・基本的な知識・
技能が身に付いているか
を見る問題



・B問題

基礎的・基本的な知識・
技能を活用することがで
きるかどうかを見る問題



3 学力調査結果の分析

①国語

国語A《学習指導要領の領域》

区分	平均正答率 (%)			
	全国	兵庫県	尼崎市	長洲小
話すこと・聞くこと	69	70	65	56
書くこと	61	59	58	55
読むこと	70	71	68	66
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78	78	76	75

- 『話すこと・聞くこと』については、「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う」という趣旨の設問で、正答率が全国を大きく下回りました。話し合いの中で、自分の考えと比べながら聞くことや、意図を捉えて話題に沿って話ができることが大切です。話し合いの場を多く設け、聞くポイントや話すポイントを絞って、話し合い活動を進めるようにしていきます。
- 『書くこと』については、「手紙の構成を理解し、後付けを書く」という趣旨の設問で、正答率が全国を大きく下回りました。手紙を書く機会が少なくなっていますが、きちんとした手紙が書けるように機会を設け、取り組んでいきます。
- 『読むこと』については、「俳句の情景を捉える」という趣旨の設問の内、情景を捉える問題では、正答率が全国を上回りました。しかし、話し合いの内容を捉えることに関しては、全国を下回りました。
- 『漢字の読み・書き』については、全国平均をとほぼ同等の正答率でした。読むことに関しては、概ね正答していましたが、書くことに関しては正答率が低く、課題が見られ、繰り返し練習をしていく必要があります。

国語B《学習指導要領の領域》

区分	平均正答率 (%)			
	全国	兵庫県	尼崎市	長洲小
話すこと・聞くこと	65	64	61	56
書くこと	53	53	49	51
読むこと	49	49	47	51

- 『話すこと・聞くこと』については、「話の構成や工夫」「目的や意図に応じた言葉遣いで話す」という趣旨の設問で、正答率が全国平均を大きく下回りました。答える形式が文字制限のある記述式だったことから、上手くまとめて書けなかったことが誤答につながったようです。必要なことを読み取り、まとめて書く力をつけていきたいと思えます。
- 『書くこと』については、正答率が概ね全国平均になりました。「目的や意図に応じて引用して書く」という趣旨の設問では、全国平均を上回りました。しかし、記述式の「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」については課題が見られます。必要な内容を整理して書く取り組みを進めていきます。
- 『読むこと』については、「自分の考えを広げたり、深めたりする発言の意図を捉える」「自分の考えをまとめる」等の設問で正答率が全国平均を上回る結果が見られました。

※記述式の設問に対して、正答率が全国平均を下回ることが多くありました。要旨をまとめたり、目的や意図に応じて、内容を整理しながら、まとめて書くことができるように、取り組みます。

②算数

算数A《学習指導要領の領域》

区分	平均正答率 (%)			
	全国	兵庫県	尼崎市	長洲小
数と計算	81	80	79	77
量と測定	69	69	67	60
図形	81	82	78	81
数量関係	80	78	76	73

- 『数と計算』については、正答率が概ね全国平均と同等の設問が多くありました。基本的な四則計算は概ねできています。しかし、「加法と乗法の混合した整数と少数の計算」では、正答率が全国平均を大きく下回りました。計算のきまりを習熟できていないことが考えられるため、再度計算のきまりを復習する等、定着を図っていきます。
- 『量と測定』については、「任意単位による測定について理解している」の設問では、正答率が全国平均を大きく下回りました。身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べることができていませんでした。算数の授業だけでなく、普段の生活と関連づけながら、学習に取り組みせたいと思います。
- 『図形』については、正答率が概ね全国平均と同等でした。平面図形や立方体の性質について理解することができていました。
- 『数量関係』については、「未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表す」設問で、正答率が全国平均を下回りました。未知数がある場合の読み取りができていませんでした。また、「資料の分類、整理」では、表を読み取ることができていませんでした。

算数B《学習指導要領の領域》

区分	平均正答率 (%)			
	全国	兵庫県	尼崎市	長洲小
数と計算	53	53	50	49
量と測定	47	49	43	32
図形	13	15	12	3
数量関係	40	40	36	29

- B問題については、全体的に正答率が低い結果となりました。全国の平均正答率でも50%を下回る問題が多くあったことから、難しい問題が多かったと考えられます。『数と計算』『量と測定』『図形』『数量関係』に共通していますが、特に「理由や意味を説明する」設問において、大きな課題が見られました。公式や計算の方法を覚えることも大切ですが、ただ覚えるだけでなく、学習したことをもとに「なぜ成り立つのか」や「式の意味」を考え、覚えたことを活用していくことが必要だと考えられます。また、理由や意味を説明するだけでなく、文章として記述できる力が必要です。そのためにも、文章問題等、いろいろな問題を解く場面を設けたり、友だちに説明したり、記述したりする場面を設けたりすることにより、活用力をつけていきます。

国語、算数ともに、記述式の問題の正答率が全国平均を下回ることが多くみられました。考えや理由を書けるようになる練習が教科をまたいで必要であるということが、今回の学力調査の結果から見えてきました。

③生活習慣や学習環境など

- 将来の夢や目標については、多くの児童が持っているようです。
- 「自分にはよいところがある」や「最後までやり遂げてうれしかった」「失敗を恐れなくて挑戦する」等、自尊感情を示す項目において、やや低い値を示す傾向がありました。進んでいろいろなことに挑戦し、やり遂げる嬉しさを感じることで、学習に限らず、様々な場面において積極的に学ぼうとする姿勢が生まれると思います。
- テレビの視聴やゲーム機の使用、携帯電話、スマートフォンでのメールやインターネットの使用時間が2時間以上の割合が全国に比べて非常に高い傾向がありました。
- 学習については、「宿題をしている」割合は、全国と同等ですが、「予習・復習」や「計画的な学習」に関しては、全国に比べて割合が低い傾向がありました。

4 本校の取り組み

今後も、次のような取り組みが必要であると考えています。学校でも課題を捉え、より一層の学力向上に努めていきます。ご家庭のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

【学校では】

- 毎朝の健康状態や朝食の有無を引き続きチェックし、児童の実態把握と啓発活動に取り組みしていきます。
- 朝の読書タイムや週末うち読、週1回の図書館を活用した学習活動等に今後も取り組み、児童の読書習慣の定着と向上を図っていきます。
- 各学年に応じた、週1回の「新聞ワーク」の取り組みを通して、新聞に慣れること、読む力や書く力の向上を図っていきます。
- 「のびっ子タイム（帯時間）」において、6年間系統立てた計算問題に取り組み、速く、正確にできるように計算力を高めるとともに、学期に1回の「のびっ子計算検定」を実施します。
- 教師の授業力向上のため、研究授業や公開授業、及び研究協議会を引き続き実施していきます。
- 算数科において、同室複数指導による、きめ細かな学習指導を進めます。
- 学習習慣の定着を図るため、家庭学習の内容等について全学年で共通理解を図ります。
- 学習内容の定着のために、放課後の時間を使って補充等を行います。
- 自分で計画を立てて学習を進めていけるように、自主学習の方法や内容を紹介しながら、自主学習ノートの活用を進めていきます。

【ご家庭では】

- 基本的な生活習慣の確立が健康にも学力向上にも大切です。引き続き、「早寝・早起き・朝ごはん」に努めてください。
- テレビを見る時間やゲーム、携帯電話・スマートフォン等の使用時間を話し合ってください。生活のリズムを見直すとともに、家族の会話を大切にしたり、家庭での学習時間を確保したりすることにつながります。
- 家庭学習の時間の目安は、〔学年数×10分+α（その子に必要な時間）〕です。低学年のうちから少しずつ、短い時間でいいので家庭での学習習慣を身につけてほしいと願っています。また、宿題だけでなく、予習・復習、自主学習等を取り入れていくことが望ましいです。
- 社会で起きている出来事に関心を持つことが大切です。新聞を読んだり、ニュース番組を見たりすることも大切です。特に、新聞を読むことで社会の出来事を知るだけでなく、文章を読む力や正しい情報かどうかを判断し、選択する力が身に付きます。いろいろな生活場面で、社会や科学に目を向けさせることも大切です。